

王柯 編

辛亥革命と日本

櫻井良樹

趙軍

安井三吉

姜克實

汪婉

呂一民

徐立望

松本ますみ

沈国威

濱下武志



藤原書店

櫻井良樹

趙軍

安井三吉

姜克實

汪婉

呂一民

徐立望

松本ますみ

沈国威

濱下武志

王柯 編



辛亥革命と日本

藤原書店

編者紹介

王 柯（おう・か）

1956年生。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士（学術）。神戸大学大学院国際文化学研究科教授。歴史学。著書に『民族国家を目指して』（商務印書館、2011年）、『「天下」を目指して』（農文協、2007年）、『20世紀中国の国家建設と「民族」』（東京大学出版会、2006年）、『多民族国家中国』（岩波新書、2005年）、『民族与国家』（中国社会科学出版社、2001年）、『東トルキスタン共和国研究』（東京大学出版会、1995年、第18回サントリー学芸賞）等。『環』32～36号（藤原書店、2008-2009年）に「日中関係の現在・過去・未来」を連載。

しんがいかくめい にほん
辛亥革命と日本

2011年11月30日 初版第1刷発行 ©

編 者 王 柯

発行者 藤 原 良 雄

発 行 所 株式会社 藤 原 書 店

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町523

電 話 03 (5272) 0301

F A X 03 (5272) 0450

振 替 00160 - 4 - 17013

info@fujiiwara-shoten.co.jp

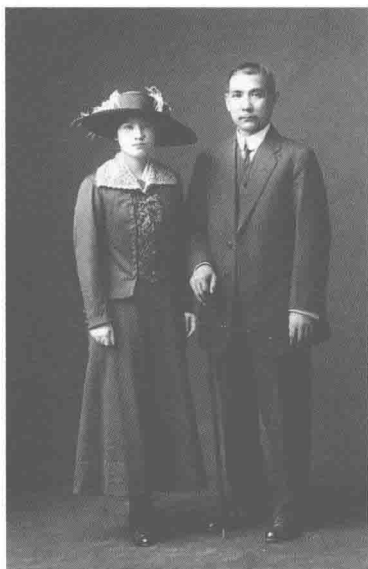
印刷・製本 中央精版印刷

落丁本・乱丁本はお取替えいたします
定価はカバーに表示してあります

Printed in Japan
ISBN978-4-89434-830-1



孫文 (1866-1925) (1913 年)



孫文と宋慶齡，東京にて結婚
(1913 ～ 16 年頃)



孫文，梅屋庄吉夫妻とともに



中国同盟会設立時（1905年8月，東京にて）



華興会メンバー。前列左端が黄興、4番目が宋教仁（1905年，東京にて）



孫文、中華民国臨時大總統に就任。その左に黃興（1912年1月1日、南京にて）



中華革命党結成時（1914年7月8日、東京にて）



宮崎滔天 (1871-1922)



内田良平 (1874-1937)



宋教仁 (1882-1913)



袁世凱 (1859-1916)



孫文の葬儀にて。左端に頭山満，中央に犬養毅，
右は蒋介石（接待役）（1925年）

辛亥革命と日本
目次

出版によせて——百年前の真相

趙宏

I

序論

.....

王柯

17

第一部 辛亥革命と日本

29

1 辛亥革命と日本政府の対応

.....

櫻井良樹

31

はじめに 31

一 革命勃発直後における対応 33

二 共同干渉の提議とその失敗 37

三 列国協調出兵と海軍の動向 41

四 革命の日本政治に及ぼした影響 44

おわりに 49

2 辛亥革命をめぐる日本民間の動き

.....

趙軍

54

——青柳勝敏をはじめとする軍人グループの活動を中心として——

はじめに 54

一 青柳勝敏の経歴 55

二 中国政策への意見書 59

三 「付録」に示された青柳の構想	64
四 「浩然廬」を通じた中国革命党への支援	70

3 民権、国権、政権——辛亥革命と黒龍会……………王 柯 81

はじめに 81

一 黒龍会と「革命の揺籃」 82

二 大陸浪人の「大陸経営」と辛亥革命 87

三 内田良平の対中方針の変遷と「満蒙」問題 94

おわりに 102

4 辛亥革命と日本華僑・留学生……………安井三吉 109

はじめに 109

一 華 僑 112

二 留学生 118

三 「文明」と「アジア主義」 122

むすび 127

5 大陸浪人と辛亥革命——連帯の接点とその性質を考える……………姜克實 131

はじめに 131

一 大陸浪人という集団 133

第Ⅱ部 日本の影響と辛亥革命前後の中国社会の変容

155

二 浪人志士の思想特徴とその解析 134

三 革命期におけるパターン分類 141

むすび 147

6

「国民教育」を目指して……………

汪婉

157

——清朝末期における視学制度の導入に見る日本の影響——

はじめに 157

一 「学部視学官」の設置 160

二 「省視学」の設置 165

三 「県視学」兼「勸学所総董」の設置 171

おわりに 177

7

二十世紀初頭浙江省における社会再編……………

呂一民・徐立望

183

——辛亥革命時期の官僚、士紳と日本留学——

はじめに 183

一 留日経験者の増大と新たな階層の出現 184

二 浙江の自治運動・憲政運動と留日経験者たち

192

8 孫中山の「徹底した民族主義」——近代的統一への幻想……松本ますみ 212

- 一 「統一」というトレンド——共時性の中でのキリスト教宣教運動と中国 213
- 二 「支那」の地図と範囲——革命前、孫中山の統一への模索 216
- 三 辛亥革命以前の「支那」の範囲 219
- 四 満、蒙、回、藏の属藩はなぜ中華民国の範囲に包摂されたのか 222
- 五 鉄道建設と拓殖・屯田と統一 225
- 六 「徹底的な」民族主義へ 229
- 七 孫中山の「民族平等思想」 230
- おわりに 232

9 新名詞と辛亥革命期の中国——日本の影響を中心に……沈国威 237

- 一 近代知の源としての日本 237
- 二 新知識の受容と新名詞 240
- 三 賛否両論の新名詞 244
- 四 新名詞と国民教育 251
- おわりに 255

地域と知域の重層——二十世紀知識人孫文にみる知域像……

濱下武志

260

はじめに——「知域」と「地域」が通じ合うこと 260

一 「知域」から考える辛亥革命期のアジアと世界 262

二 歴史周年記念にみる“記憶”の現在性 264

三 周縁からの孫文資料と辛亥革命研究 267

四 知識人としての孫文の「知域」 271

五 「知域」の交錯 273

六 孫文故居蔵書目録と孫文の「知域」の広がり 278

七 孫文と Jeremiah Jenks 283

八 辛亥革命と日本——一九一二年刊『華瀛宝典』 287

おわりに——「知域」の画分と総合 289

あとがき 299

「辛亥革命と日本」関係年表(1871-1925) 315

人名索引 321

出版によせて——百年前の真相

辛亥革命以降の百年は、中国にとって激動の百年であった。

疑いなく、一九一一年は中国にとって極めて重要な年、そしてあらゆる中国人にとって血が沸き立つような年であった。この年の三月、多くの青年は革命のために死を覚悟し、千年の歴史を有する広州、この近代革命の発祥地で、自分の血で家族に最後の手紙を書き残して蜂起に身を投じたのである。

林覚民は「吾は汝を至愛する。即ち汝を愛するこの想いが吾に就死の勇氣を与えたのである。……吾はこの汝を愛する心を以て、天下の人々が至愛できるように尽くし、よって汝をも顧みずに汝より先に死する」と愛妻に手紙を残し、方声洞は「すでに二十六歳なり、家族に対して本来尽くすべき責任を持つ。但し国家がなければ家族も守られず、死を以て家族の生を求めるしかない。今日に満洲の駆除に全力を尽くすことは、国家に対する責任を全うすることであり、よって家族を守ることもある」と両親への絶筆を送った。

いったいどんな理由で、この二十代の青年たちは理想のために両親、愛妻をも顧みずに冷静に死と対

面できたのであろうか。それは、専制を打倒し、共和を樹立して富強の国家を実現させることへの憧憬である。一九一一年十月十日、揚子江の畔にて、革命に惚れた兵士たちはついに清王朝に反旗を掲げ、湖広督府を占領し、武昌蜂起を起こしたのである。それに呼応して全国各地で蜂起が起こり、二千年に亘る皇帝専制が一挙に崩壊し、共和はついに実現したのである。皇帝が倒れ、辮髪がなくなり、共和が実現したことは、まさに青年たちの夢であり、また歴史の必然的な潮流でもあった。

しかし、歴史は往々にして、歴史家たちによる歴史の教科書よりも複雑でさまざまなことを連想させるものである。興中会が提唱した「驅除韃虜、恢復中華、創立合衆政府」がなければ、華興会の「驅除韃虜、復興中華」がなければ、光復会の「漢族を光復し、我が山河を取り戻し、身を以て国家に捧げる」がなければ、同盟会の「驅除韃虜、恢復中華、創立民国、平均地権」もなく、民主共和国もなかった。辛亥革命はまさにひとつのシンボルであり、時間と空間を超えてわれわれに様々なことを提示してくれる。そのため、歴史の真実に接近し、国家の興亡盛衰について思索を深め、それは単なる歴史を振り返ることだけではない。辛亥革命の精神を掘り起こすことは、民族の知恵と精神を発見する、永遠に続けられるべき作業である。

辛亥革命は、中華民族の覚醒を意味する偉大な進歩であり、近代以降の中国の歴史的発展のための基礎を築いた。その意味で、辛亥革命はまさに「中国の近代的民族民主革命」または「中国近代の完成した民族民主革命」であった。二十世紀の中国は歴史的大転換を三回体験したが、辛亥革命がまさにその第一歩であった。辛亥革命がなければ、その後の人民共和国の樹立、そして改革开放もなかった。中国共産党だけではなく、中国の国民もみな辛亥革命は偉大な意義のある歴史的出来事と見ている。歴史は

まさに民族を復興させる大きな力であり、歴史を理解することを通じてこそ、われわれは自我を実現させると同時に心のよりどころを発見できる。

辛亥革命は没落して腐りきった封建王朝を倒し、中国の二千年に亘る封建帝制に終止符を打った。そこで、長い歴史を有する華夏の大地が夢から目覚め、貧弱な民族が立ち上がった。これはいかに偉大な功績であろうか。一九一一年の中国革命は中国五千年の歴史上における重大な事件であり、近代中国の始まりである。辛亥革命の歴史を再見することは、中国、中国の革命、中国の民主主義、さらに中国の行方を理解する上も非常に重要な意味を持つと考える。

一九一一年の中国大革命は中国の独特の知恵を示した。「戦わずして人の兵を屈するは、善の善なるものなり」。歴史を通じて積み重ねてきた知恵を持つ中華民族は、敬意を以て王朝の退場を見送り、歴史の転換を迎えたのである。このような近代中国の歴史のプロセスに関しては、学術研究を通じて認識を深め、そしてそこから得た知識を共有しなければならない。とくに今日において、われわれは辛亥革命の歴史的意義をもう一度学術的側面から考える必要を強く感じている。

われわれは辛亥革命の意義を振り返るとき、まずそれをこの百年の間に中華民族が復興のために注いだ偉大な努力を背景に考察すべきであると思う。辛亥革命によって中国は大きな歴史的進歩を実現したが、当時の中国社会の半封建的半植民地的性質はなお変わることがなく、民衆は相変わらず悲惨な状況に暮らしていた。そのため、まさに孫文先生が言い残したその名言の通り、「革命派未だに成功しておらず、同志たちはなお努力しなければならぬ」、あらゆる進歩的社会勢力は、中国が抱えている社会の問題はなお根本から解決していないと、自戒したのである。

辛亥革命はすでに百年前のこととなり、百年前の革命の歴史的意義を比較の観点から、かつ全面的に評価するのに当たり、政治的側面と思想的側面に重点に置いて考察すべきであると思う。

政治的側面から言えば、辛亥革命は中国が数千年にわたって築いてきた古い統治システムを打ち壊したのである。この数千年にわたって比較的安定した封建主義的専制主義的統治システムの頂点に立っている最高支配者は、皇帝である。辛亥革命はこの皇帝の首を切り取ったため、古い社会的秩序が全般的に乱れてしまい、そこから古い社会勢力による統一の安定した社会秩序の再建はもはや不可能になったのである。この意味では、辛亥革命によって中国社会が大きく変わったといえる。

思想的側面から言えば、国家と個人との関係について、中国の民衆の間に大きな意識変化が起こったことである。辛亥革命が思想上において中国社会にもたらしたもっとも重要な影響は二つあると感じる。一つは民主主義の高揚である。辛亥革命より九年後に五四運動が発生し、一〇年後に中国共産党が設立される。辛亥革命による民主主義思想の高揚がなければ、五四運動の発生も不可能であった。もう一つは思想の解放と意識の変化である。君主専制制度の下では皇帝が絶対的で冒瀆してはならない神聖な存在であったが、辛亥革命はこのような伝統意識を打ち破った。至上の存在だった皇帝さえ倒すことができるなら、ほかに懷疑し打ち捨てられないものなどあるのか。辛亥革命がもたらしたこのような意識の変化は思想の解放を大きく刺激したのである。陳独秀が雑誌『新青年』に発表した『偶像破壊論』は、このような思想解放のシンボルであった。

今日からみれば、辛亥革命が成功した理由は、主に三点あると思う。第一に、辛亥革命が中国の民衆に利益をもたらしたことである。民衆を封建帝政による圧政と悲惨な生活から救い出したため、大多数